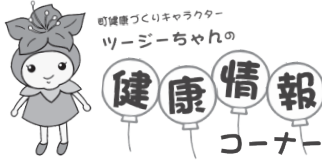


3月1日から7日は予防接種週間です



予防接種、受け忘れていませんか？

子どもの病気は、適切な年齢にワクチンを接種することで感染症の予防や、重症化を防ぐことができます。3月1日～7日の間は、診察時間の延長や土日診療をしている病院があります。必要な予防接種を済ませ、病気を未然に防ぎましょう。

小学校入学前までに必要な予防接種（接種を忘れがちなもの）

ワクチン名	対象者と接種回数
麻しん風しん（MR）	1期：生後1歳以上2歳未満 2期：保育所年長児（相当）4月1日から3月31日の期間で1回
水ぼうそう	生後1歳から3歳未満（2回）
日本脳炎	1期：生後6カ月から7歳6カ月未満（3回）

小学生に必要な予防接種

ワクチン名	対象者と接種回数
日本脳炎	2期：9歳から13歳未満（1回）
二種混合	11歳から13歳未満（1回）

中学生に必要な予防接種（女性のみ）

ワクチン名	対象者と接種回数
子宮頸がん	12歳となる日の属する年度の初日から16歳になる日が属する年度末日まで（3回）

▼接種される際には、必ず母子手帳と予診票を持っていきましょう。接種間隔は接種医とご相談ください。

▼子宮頸がんワクチンは現在接種の積極的勧奨が差し控えられていますが、希望者は公費負担で接種可能です。

▼平成17年度から21年度にかけての接種の積極的勧奨の差し控えにより、日本脳炎の予防接種を受ける機会を逃した平成7年4月2日～平成19年4月1日生まれの方は特例で定期予防接種の対象になります。詳しくは担当までお問い合わせください。

忘れていませんか？高齢者肺炎球菌ワクチン

令和3年度高齢者肺炎球菌ワクチン対象者

対象者	生年月日
65歳になる人	昭和31年4月2日～昭和32年4月1日生まれ
70歳になる人	昭和26年4月2日～昭和27年4月1日生まれ
75歳になる人	昭和21年4月2日～昭和22年4月1日生まれ
80歳になる人	昭和16年4月2日～昭和17年4月1日生まれ
85歳になる人	昭和11年4月2日～昭和12年4月1日生まれ
90歳になる人	昭和6年4月2日～昭和7年4月1日生まれ
95歳になる人	大正15年4月2日～昭和2年4月1日生まれ
100歳になる人	大正10年4月2日～大正11年4月1日生まれ

接種期間 / 令和4年3月31日（木）まで
自己負担額 / 2,000円

【問合せ先】町健康福祉センター（電話 72-1852）

▼対象者には、令和3年7月に高齢者肺炎球菌ワクチン受診券を送付しています。ただし、過去に任意接種で高齢者の肺炎球菌ワクチンを1回でも接種した人や、5年前の平成28年度に接種した人は対象外です。

▼接種を希望する人は、かかりつけ医へご相談ください。

▼受診券を紛失した場合は、再発行しますので下記までご連絡ください。

第62回 最も怖いがん 膵臓がん

日野病院 病院長 孝田 雅彦



日野病院の孝田雅彦病院長が、さまざまな病気や健康について、その予防法や健康に過ごすための豆知識などお役立ち情報をお届けします。

生存率の低い膵臓がん なりやすい特徴は

2022年2月1日、石原慎太郎氏が亡くなったというニュースが飛び込んできました。89歳、膵臓がんだったそうです。膵臓がんは亡くなった有名な、昭和天皇、千代の富士、星野仙一などなど、枚挙にいとまがありません。

残念ながら、膵臓がんは最も生存率の低いがんです。膵臓はお腹の最も奥にあるため、検査をするのもなかなか難しいのです。したがって、早期に見つけるのが困難で、発見が遅れることがいまだに多いがんです。しかし、徐々に膵臓がんに対する研究も進歩してき

ています。まず、膵臓がんになりやすい患者さんの特徴（リスク因子）が分かってきました。近親者に膵臓がんになる確率はそうでない人の4.5倍、2人いると6.4倍になります。また、糖尿病で2倍、肥満は1.5倍、2.8倍、喫煙は1.7倍、飲酒は1.2倍、慢性膵炎は13倍、膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）のある患者は16〜22倍になると報告されています。

特に、糖尿病が発見されて間もない人、アルコールなどによる慢性膵炎の人、IPMNと診断されている人は、定期検査をぜひ受けてください。

がん検査による早期発見で 生存率は大きく改善

それではどのような検査を受ければよいのでしょうか。一般的には簡便で苦痛のない超音波検査が行われますが、肥満、便秘のある人は脂肪やガスによって膵臓を観察することが困難です。また、CTやMRIに比べると診断能が劣ることが明らかになっています。

造影剤を用いたCTは昔から診断能が高く、標準的に行われてきましたが、定期検査として用いるのには被曝の問題があり薦められません。造影MRIは造影CTと同等の診断能をもち、被曝ありません。造影を行わないMRIでも診断能は高く、定期検査として用いるのに最適です。私が一押しの検査です。

これらの検査で膵臓に腫瘍が疑われれば、超音波内視鏡検査が必要となります。超音波内視鏡は胃カメラの先端に超音波がついており、胃の中から超音波を使って膵臓を観察し、必要な場合には腫瘍に細い針を刺して、組織検査をすることもでき

ます。組織検査によって膵臓がんかどうか、また、抗がん剤が効くかどうかも推測することができると、今では必須の検査となっています。

残念ながら、日野病院では超音波内視鏡検査はできませんが、MRI、CTは最新の装置を導入しているため、膵臓がんの検診には充分な体制を整えています。実際、私の外来ではIPMNの患者さんには半年に1回MRI検査を行っています。

膵臓がんは最も怖いがんではありますが、早期に見できれば生存率は大きく改善します。前述のリスク因子のある人は日野病院にご相談ください。

